

学級活動学習指導案

令和2年10月15日(木) 第6学年3組(6年3組教室) 指導者 針谷 尚志
小沼 美穂

【議題】授業で「共にわかつう」

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア. 学級や学校における生活上の諸問題の解決

| 考察 | 知識及び技能 | 思考力, 判断力, 表現力等 | 学びに向かう力, 人間性等 |
|------------|--|--|--|
| 育成を目指す資質能力 | <ul style="list-style-type: none"> 授業にクラス全員意欲的に参加し, 共にわかることについて, 話し合っ解決することや友達と協働することの大切さを理解し, 合意形成の手順や活動の方法を身に付けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業にクラス全員が意欲的に参加し, 共にわかるための課題を見だし, 解決するために話し合い, 友達の意見を受け入れ, 多様な考えを生かして合意形成を図り, 協働して実践できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題の解決のために, 進んで話し合いに参加したり, 授業にクラス全員が意欲的に参加し, 共にわかるために行うことに取り組んだりして, 日常生活の向上を図ることができる。 |
| 児童の実態 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが目指す学級の姿について, 話し合い方を理解し, 学級全体で取り組むことを決めることができた。 目指す学級の姿は共有できるものの, 友達の意見を踏まえて話し合うことには難しさがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが目指す学級の姿については, 全体で取り組むことへの課題を見だし, 友達の意見を受け入れ, 合意形成を図り, 協働して取り組むことができた。 自分たちが目指す学級の姿を想定する状況が多様であるため課題を把握できず, 合意形成を図ることに難しさを感じる児童もいた。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが目指す学級の姿については, 進んで話し合いに参加し, 全体で取り組むことを行えた。 全体で取り組むことを意識しているものの, その状況に置かれると, 意識することと行為を結び付けることができず, 実践できない児童もいる。 |
| 価値 | <ul style="list-style-type: none"> 出された, 共にわかるために行うことに対して, 賛成する内容を選択するという順序で話し合うことは, 友達の共にわかるために行うことのよさを踏まえた上で, 話し合うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを用いて, 出された, 共にわかるために行うことを比較しながら順位付けを行うことは, 友達の共にわかるために行うことのよさを基に, 合意形成を図ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前に計画委員が決めた, 忘れてはいけないこととした「よりよい授業をつくる」という言葉から, 具体的な授業場面を共有することは, 共にわかるために行うことと, 実践を結び付けながら, 話し合いに参加することができる。 |
| 見方・考え方 | <p>授業で共にわかるために行うことについて話し合い, 合意形成されたことを実践に結び付けること。</p> | | |
| 今後の学習 | <p>日々の授業の中での取組につながる。</p> | | |

指導と評価の計画

| | | | |
|----------|---|--|--|
| 目標 | 授業で共にわかるクラスにすることで互いに高め合うことができるよさを基に、授業で共にわかるために行うことについて根拠を明らかにして話し合い、みんなで実行していくことを集団決定するとともに、学級全体で協力して取り組むことによって、自分たちで生活をよりよくする充実感を味わう。 | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 授業で共にわかるために行うことについて相手の思いを受け止めたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 授業で共にわかるために行うことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、授業で共にわかるために行うことについて話し合ったり決めたことを行ったりしようとしている。 | | |
| 過程 | 活動内容 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 |
| 事前 | ○本時に話し合う議題を知る。 | ○本時の議題について自らの意見をもてるように、「共にわかろう」の掲示の内容を確認する時間を設定する。 | |
| 本時 | ○授業で共にわかるクラスにしていくことのよさを知る。 ○授業で共にわかるクラスにしていくためにみんなで取り組んでいくことについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○学級全体で取り組むことを決める。 | ○話し合いへの意欲を高められるように、授業で共にわかるクラスにしていくことのよさを助言する。 ○共にわかるために行うことを具体的な内容にできるように、授業の中で大切にしている「共にわかろう」の振り返りの項目を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。 | ◇出された、共にわかるために行うことに対して賛成をする内容を選択し、根拠を伝えている。 <発言・思考ツール①②③> |
| 事後 | ○決定したことを学級全体で実行する。 | ○実践の充実感を感じられるように、実践後に成果を伝える時間を設定する。 | |

本時の学習（1／1時間目）

ねらい 授業で共にわかるため行うことについて、「よりよい授業をつくる」の視点を基に話し合うことを通して、自分とは異なる共にわかるために行うことを認めたり、自分の、共にわかるために行うことを伝えたりしながら、合意形成をすることができる。

評価項目 出された、共にわかるために行うことに対して賛成をする内容を選択し、根拠を伝えている。 <発言・思考ツール①②③>

| 学習活動と児童の意識 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員が一緒に分かるように授業をつくりたいな。 <p>議題：授業で共にわかろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の議題が「授業で「共にわかろう」になったのは、授業に対するみんなの振り返りで、“進んで手を挙げて発言していますか”などの項目についてよくできている人が少なかったからだね。 <p>・今日は、全員が授業に意欲的に参加して、共にわかることができるように、クラスで取り組んでいくことを決めよう。（目的意識）</p> <p>2 共にわかるために必要なことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「忘れてはいけないこと」の「よりよい授業をつくる」というよりよい授業は、みんなが理解できるということだね。そのためにクラスで取り組んでいくことはどんなことがあるかな。 ・授業で共にわかるためには、先生や友達の意見をしっかり聞くことが必要だと思うな。 ・友達も、他の人が付け足して、分かりやすくすることが必要だと考えたんだね。確かにそれも必要なことだね。 ・みんなで教え合うことが必要だと考えた友達もいるな。クラスにとっては何れも大切だけれど、順位を付けて、一番必要なことを考えよう。 ・友達の順位を見ると、みんなで教え合うということが必要だと考えている人が多いな。確かにこれはとても大切だね。 <p>・全員が授業で共にわかることができるように、みんなで教え合うことをやっいていこう。（目的を達成した意識）</p> <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「忘れてはいけないこと」を意識して、友達の共にわかるために行うことの良さを考えながら話し合えたな。これからの授業が楽しみだな。 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業における課題を見いだすことができるように、授業に対する振り返りのアンケートの結果を提示し、改善すべき内容を問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> ○授業で共にわかるために行うことに対して方向付けを行えるように、「忘れてはいけないこと」とした「よりよい授業をつくる」という「よりよい授業」のイメージを共有する機会を設ける。 ○授業で共にわかるために行うことについての話し合いに対する意欲を高められるように、「よりよい授業」のイメージとして「みんなが理解できる」ということを全員が共有できたことを称賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ○自らの授業で共にわかるために行うことに対する考えをもてるように、授業の振り返りアンケートを基に改善すべき内容を見いだすよう促す。 ○自らの授業で共にわかるために行うことに対する考えの不十分さを自覚できるように、互いの授業で共に分かるために行うことに対する考えを発表する機会を設け、自らの考えと比較するよう促す。 ○自らの授業で共にわかるために行うことの不十分さを補うことができるように、「みんなが理解できる」という視点を示した思考ツールを用いて出された考えの順位付けを行う機会を設け、友達の考えのよさを基に賛同する考えを選択するよう促す。 ○出された考えの順位付けに悩んでいる児童には、出された考えのよさに気付けるように、具体的な授業の様子を想像するよう促す。 ○出された考えのよさを自覚できるように、互いに考えた順位付けとその根拠を紹介し合う機会を設ける。 ○自らが賛同した授業で共にわかるために行うことのよさを自覚できるように、改めて「忘れてはいけないこと」とした「みんなが理解できる」を再確認するよう促す。 ○授業で共にわかるために行うことを決められた達成感を得られるように、互いの授業で共にわかるために行うことに対する考えのよさを基に、話し合えたことを称賛する。 |

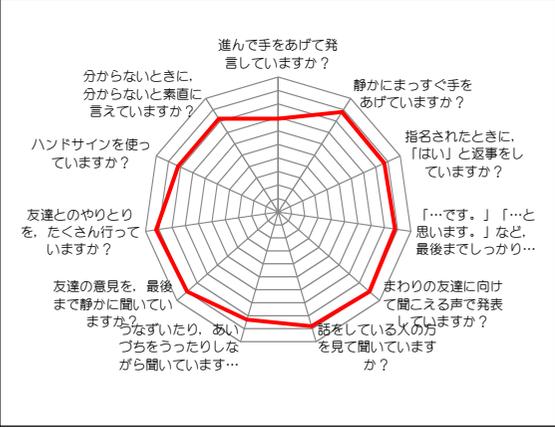
授業の振り返り

※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。
【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

| | |
|-------|---------------------------|
| 機器 | タブレット（1人1台）、大型モニター |
| 使用アプリ | ロイロノート |
| 機能等 | ピラミッドチャート（順位付け）提出箱（共有・比較） |

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 本時の導入において、児童は、授業の取組の振り返りアンケートの結果を見て、クラス全体の授業への取組のよさや不十分さを知った。その際、「進んで手を挙げて発言していますか」や「うなずいたりあいづちをうったりしながら聞いていますか」など不十分さが高い項目に対して、納得したり驚いたりする様子が見られた。

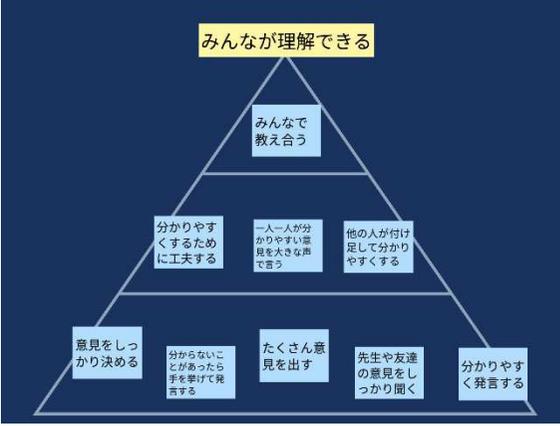


＜授業の取組の振り返りアンケート結果＞

次に、議題「授業で共にわかった」の提案の理由と、話し合いにおいて「忘れてはいけないこと」である「よりよい授業をつくる」を具体化した「みんなが理解できる授業」を確認した。これらのことにより、児童は改めて授業で共にわかるために行うことを決めるという目的意識を明確にした。

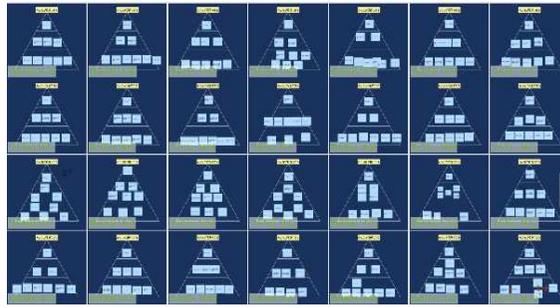
【展開】 話し合いが始まり、授業で共にわかるために行うことに対する意見が出された。児童からは、「分かりやすく発言する」「先生や友達の意見をしっかりと聞く」「他の人が付け足して分かりやすくする」など多様な意見が紹介された。意見がある程度出された後、教師は「忘れてはいけないこと」として「みんなが理解できる」と、児童から出された意見を示したピラミッドチャートをロイロノートの送る機能で配付した。児童はこれらを用いて出された意見の順位付けを行った。その際、意見が示されたカードを操作しながら、

カードに示されたの各意見のよさを考えながら、自分なりに順位付けを行っていた。これは、本時の中で出された意見に対して即時的に検討できたことや、カードという操作性の高い方法で検討できたことにより、自らの意見を主体的に選択できた姿だと考えられる。一方で、出された意見が多様になり過ぎたことにより、ピラミッドチャート上でカードを処理できず、順位付けを行えない児童も見られた。



＜順位付け後のピラミッドチャート＞

【終末】 教師は、一人一人の順位付けを共有する機会を設けた。児童は、自らと友達の順位付けを比較し、順位の違いに驚いたり友達の順位付けの理由に納得したりしていた。これは、それぞれの授業で共にわかるために行うことのよさを実感していた姿であると考えられる。最後に、実感したよさを比較し、「忘れてはいけないこと」に照らして「みんなが理解できる授業」を目指すためにクラスで取り組むこととして、「みんなで教え合う」ことを決めた。



＜比較した全員のピラミッドチャート＞

○授業改善に向けて

・授業で共にわかるために行うことに対して出された意見のよさを自覚した上で、話し合いを行うことができるように、ロイロノートの送る機能で配布するカードの数を限定することが必要である。